

研究員の不足，予算の不足，試験地獲得の困難さは，研究推進の大きなネックになっている。

研究員の不足は先にも述べたように，現在員は定員の半分を占めるに過ぎないという絶対数の不足に加えて，独立研究員として研究を進めることの出来るスタッフは非常に少ないという問題を抱えている。研究予算の不足は開発途上国共通の問題であるが，PNG では政府歳入の重要部分を占めていたブーゲンビル島銅山からの収入が，土地所有者との紛争のため銅山閉鎖という事態に追い込まれ，無くなってしまった影響が大きい。また試験地獲得の困難性には，PNG では国有林が非常に少なく，森林のほとんどが部落所有であるという事情が存在する。

このような問題点を克服して研究を進めて行くためには，大きな努力が必要であるが，一步一步足もとを固めながら進むことが，最善のみちであろう。幸い所長以下多くのスタッフは，PNG 森林研究推進の意気に燃えているので，その成果に期待している。

最後にこのプロジェクトに対するご支援をお願いして筆をおきます。

新刊紹介

◎木材の持続的生産のための湿潤熱帯林の経営：その問題点 (J. Wyatt-Smith : The Management of Tropical Moist Forest for the Sustained Production of Timber, Some Issues. IUCN/IIED Tropical Forest Policy Paper-No. 4, 20 pp., (1987), 邦価約 2,700 円)

本書は，熱帯林における森林経営について書かれたものである。

湿潤熱帯林とは，人間のために多くの林産物を与え，さまざまな機能をはたしており，生物の多様な種を保持している。しかし，その実態は明らかにされていない。ところが，この森林も現在では，そこで得られる林産物のことについてしか考えられておらず，湿潤熱帯林独自の特性は無視されている。このため，現地住民にも不利益と被害をもたらしている。湿潤熱帯林の経営は，短期的な視野ではなくもっと長期的な影響を考慮しなければならない。これらの問題について，新たな考えに立つよう本書は訴えている。

読みやすいページ数であり，熱帯林経営問題の基礎を学ぶのに有効な一冊である。
(百村帝彦)